

# 大津港活性化・再整備実施計画(素案)の概要

## 基本構想

### 大津港の目指す姿: Re:Port OTSU/BIWAKO ~日本一にぎわいのある「湖の港」~

大津港は古来よりヒト・モノ・コトの結節点であり、今後も**暮らす人・訪れる人の結節点**であり続けるよう、**にぎわいの拠点**になることを目指す。実現にあたっては、以下の考え方にに基づき官民が連携して進める。

Re:Portには、**Reborn(再生)**、**Renovation(更新)**、**Rebranding(一新)**といった今あるものを新しいものにする「**Re**」と「**Port(港)**」をかけあわせて、新しいみなとの再整備を目指す意味を込めている。

背景:大津港は完成から25年以上経過し老朽化が進展しており、また、社会情勢の変化(にぎわい創出、災害時の役割拡大等)への対応が求められていたことから、長期構想を策定

にぎわいの方向性:「暮らす人の日常的利用の豊かさがあり、訪れる人もその魅力に触れ、非日常的な体験を楽しめる状態」

構想期間:R7から20年間

取組主体:港湾管理者(県)・大津市・地元自治会・民間団体(関係企業・経済団体)等

取組方針:官民連携でハード整備・ソフト充実(動線の改善、みなと緑地PPP、湖上交通、みなとオアシス、花噴水、防災等)

基本理念:【魅力と機能を磨く】【暮らしと体験を創る】【安全と安心を高める】

## 実施計画(素案)の概要

### 策定の目的

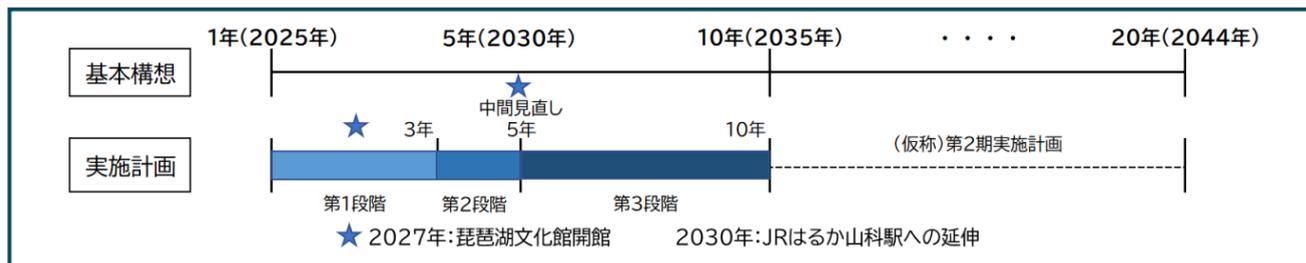
・基本構想で描いた20年後の目指す姿や基本理念等を受け、具体的な実施内容を明記した計画を策定する。

### 計画の位置づけ

- ・基本構想の基本理念や取組方針に記載していた内容について、誰がどのように取り組んでいくかを可能な限り具体化するもの。
- ・滋賀県が行う港湾施設整備に加えて、民間事業者などが実施する施設活用に係る取組の方向性も記載。
- ・具体的な各取組施策は、基本理念に基づいて整理。
- ・また、「港町大津」として大津市におけるまちづくりに係る取組との整合や、官民連携まちなか再生推進事業等の事業との整合を図り、周辺施設・周辺地域との相乗効果を生み出すことを目指す。

### 期間

- ・3年、5年、10年の3段階を設定し、スケジュール感を明示。なお、基本構想期間(20年)の残り10年は、新たな実施計画((仮称)第2期計画)を掲げることにより、具体化する予定。
- ・また、今回の実施計画においても、県域方針や大津市・民間事業者の動きと連動できるよう、中間年(5年目)に見直しを行う。



### 対象のエリア

・県の所管する港湾のエリアだけでなく、大津港を結節点・琵琶湖の玄関口ととらえ、周辺地域や琵琶湖・他地域エリアなどの関わりのあるエリアも含める。



図 大津港活性化・再整備実施計画の概念図

## 具体的な取組施策

※現時点案。関係者との調整等を継続して行い、再精査する予定

### (1) 魅力と機能を磨く

「みなと」・「まち」・「琵琶湖」を相互につなぐみなとにする

結節点である魅力を活かした高機能な空間づくり

- ・施設の再配置・整備による回遊性の向上
- ・「みなと緑地PPP」による民間投資の誘致・誘客力の強化
- ・旅客ターミナルの必要機能の見直し検討

大津港周辺および市内外との結節機能の強化

- ・周辺地域のまちづくり・再整備との連携(鉄道駅からの誘導のための周辺地域との統一的なサイン設置など)
- ・新しい琵琶湖文化館と連動した湖上文化観光のプログラムによる県域への展開
- ・びわ湖疏水船による京都市域との連携

### (2) 暮らしと体験を創る

「みなと」の中でも楽しむために集まり、「みなと」から外へ向かう楽しみもある、ワクワク感のあるみなとにする

豊かな暮らしを育み、多様なチャレンジを受け入れる場づくり

- ・周辺住民や観光客が琵琶湖のロケーションを楽しみつつ憩える滞在空間の形成
- ・みなとオアシスへの登録(R8)および空間整備によるイベントの活性化、利用手続の簡素化を図る枠組づくり

ここでしかできない体験を提供する場づくり

- ・視点場を意識したびわこ花噴水の再整備等によるナイトタイムエコノミーの創出、それらを活用した観光事業の展開
- ・広域展開やクルーズ需要創出のための棧橋新設・機能強化
- ・ビワイチの拠点機能強化

### (3) 安全と安心を高める

誰もがいつでも安全・安心に過ごせるみなとにする

誰もが安全で安心して過ごすことのできる環境づくり

- ・夜間景観照明の再整備による防犯機能の向上
- ・人と自転車の交錯を解消した安全に回遊できる通路整備
- ・バリアフリーを意識した再整備

災害時においてもヒト・モノを守る強靱な拠点への機能強化

- ・琵琶湖の南北をつなぐ広域湖上輸送拠点として、災害時の拠点機能の確保
- ・維持管理計画に基づく施設の長寿命化

## 港湾施設の再整備イメージ

※現時点案。関係者との調整等を継続して行い、再精査する予定

### 港湾緑地

- ・大津港全体・浜大津エリア全体での回遊性を向上させる施設配置、サイン表示の再設置
- ・新琵琶湖文化館開館に合わせたエントランス空間の再整備
- ・「みなと緑地PPP」によるにぎわい(物販・飲食)施設の整備
- ・滞在空間づくり・イベント空間整備(日除け、ベンチなどのファニチャー、ステージ、給電・給排水施設等)
- ・緑地空間のライトアップ・照明改善による防犯機能の強化



にぎわい施設  
(物販・飲食)



緑地の照明改善

### 噴水施設(びわこ花噴水)

・大津港のシンボルとして再整備

(1)コンセプト:

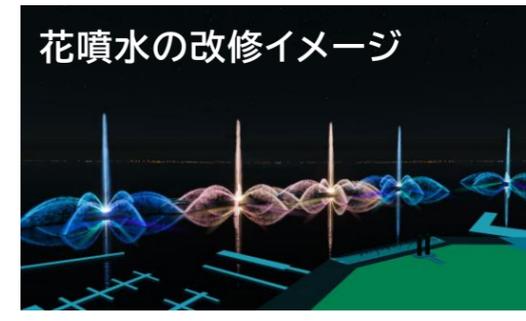
現コンセプト(夢の架け橋ウォーターブリッジ)を引き継ぎつつ、新要素の追加を検討

(2)スペック:

現行からスケールアップ・フルカラーLED化  
→ナイトタイムエコノミーの活性化



花噴水の改修イメージ



花噴水の改修イメージ

### 係留施設(棧橋等)

・棧橋の新設・機能拡充

→周遊観光プログラム(文化財巡り等)・シーグライダー等次世代モビリティへの対応、災害対応機能の拡充

・湖上レストラン等の誘致による目的地の追加

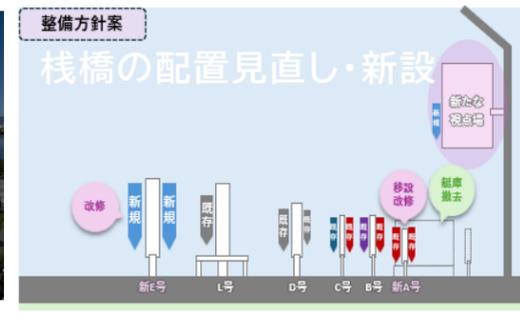
→ロケーションを生かした視点場づくりや利用時間の夜間拡張による高付加価値化

・適切な係留施設の配置の見直しおよび利用ルールの明確化



湖上レストランの誘致イメージ

琵琶湖ホテル前棧橋の機能強化



## 施策展開のスケジュール

・3年、5年、10年の3段階を設定し、スケジュールを明示。

・令和9年12月に開館する新琵琶湖文化館の開館、令和12年のJR山科駅への特急はるか号の延伸、現在計画中の京阪びわ湖浜大津駅と直結する三条京阪駅周辺の再開発などの関連事項と整合の取れた事業実施を計画する。